

氏名 見上公一 慶應義塾大学 理工学部 准教授

〈専門分野〉 科学技術社会論、科学技術ガバナンス

- 議題1のテーマ「これからの自然科学系研究者にとって、市民意識を捉えることは重要か。そもそも、市民意識は捉えられるのか。」という問いについて、お考えをお示してください。

「市民」はこれまで「それ以外」のように扱われてきた

- 科学者や研究者とは違う、専門的な知識を持たない人
 - 行政や企業の関係者とは違う、職務として関与するわけではない人
- ⇒ 議論が直接的に関与する人たちで完結することの危うさを考えた時には、やはり市民意識を捉えようとすることは重要

ただし、「市民」は包括的な概念であり、誰かを排除するものではない

1. 定義上の問題として、研究者や行政・企業関係者も含まれるはず
2. 手続き上の問題として、誰も排除せず全ての人の意識を捉えることは不可能

- ⇒ 立てるべき問いは「特定の誰かに限定されとしても市民とされる誰かの（場合によっては偏った）意識を知ることは重要か？」ではないか？
- 議論が直接的に関与する人たちだけで完結することの危うさを認識する上でやはり重要